

一大室寺城

小寺氏曰大梵寺又ハ大室寺とも書今は
鶴ヶ尾と号に平地なり土人曰湯座山大日
如来の御面を流れ出る川を大梵字川と云
は川常に阿字の流れとなす此川水城の
東を流るゝによつて大梵字の城といふ所
て大室寺といふは城何人の経略といふ事
詳ならずと云く三代実録元暦又年三月
廿六日の条下に一府二城以備非常とあり
一府二城の事ハ才一と書は江をけふの文

節を考れも元暦の以朝家より築せむと城
と云但湯田の城より後の事と云阿字の流
るゝ處ハ大梵字川といひは川水城乃ち東を
流るゝによつて大梵字の城といふ所て大
室寺といふといふハ附会の説なり（一）四
史ハ一府二城とあれも當地も出羽の府の内
なり府ハ薩^{サツ}朱子曰薩^{サツ}貨^カ賊^チ曰府とあり
城ハ是ハ大室なり寺と云司^シ官吏^{カンリ}止^チ
なり城ハ官吏の居館之なるハ大室寺の城と
ハ号一と云や城下につくる材を大室寺